

社会資本総合整備計画

天龍峡地区都市再生整備計画

平成 26 年 3 月 19 日

長野県 飯田市

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	長野県(ながのけん)	市町村名	飯田市(いいたし)	地区名	天龍峡地区(てんりゅうきょうちく)	面積	320 ha
計画期間	平成 26 年度 ~ 平成 28 年度	交付期間	平成 26 年度 ~ 平成 28 年度				

目標 「天龍峡百年再生」 大目標 住む人も訪れる人も、ゆったりと自然や歴史に触れ、人と人との交流を楽しめ、身も心も癒されるまちづくり 小目標① 住む人も訪れる人も、ゆったりと自然や歴史に触れ、人と人との交流を楽しめ、身も心も癒される天龍峡づくり 小目標② 名勝地にふさわしい景観と、安全快適な天龍峡づくり

目標設定の根拠 まちづくりの経緯及び現況 ■地区概要・現況 天龍峡地区は、飯田市の南端に位置し、貴重な文化財であり、重要な観光資源である「名勝天龍峡」を中心とした地区である。平成に入り豊富な天然ラドンが含まれる温泉が湧出するなど、ピーク時(平成4年)には約80万人の観光客が訪れていたが、旅行形態・ニーズの多様化などにより平成17年になると約30万人にまで落ち込み、宿泊施設、土産・飲食店等の廃業・休業による空き店舗が増加してきている。周辺では、天龍峡エコハレープロジェクトが進行しており、天竜川左岸龍江地区では観光体験農業の受入、右岸川路・竜丘地区では、ファクトリーパークやエコハウジングビレッジの整備、環境をテーマとした新産業ゾーンの形成が進みつつある。さらに平成20年には、中央自動車道に直結する三遠南信自動車道が天龍峡インターまで供用開始し、関連するインフラ整備も進められてきている。現在は、新たな周遊路として利活用できる三遠南信自動車道(仮称)天龍峡大橋の整備が進行しており、やがて遠州・三河地域まで開通する。開通時を見据え、南信州と遠州・三河地域との広域連携プロジェクトも進みつつある。 ■まちづくりの経緯 飯田市では、平成18年度より天龍峡地域再生マネージメント事業により地域再生マネージャーを招聘し、地域住民や観光関係者、行政等と協働による「天龍峡再生プログラム」を策定、平成20年度を「天龍峡再生元年」として、プログラムの実践に着手している。平成21年度からは、国土交通省所管まちづくり交付金(現社会資本整備総合交付金)を、さらに平成22年度からは文部科学省所管国宝重要文化財等保存整備費補助金を導入し、名勝天龍峡(北半部)の公開活用をはじめ、天龍峡の観光のまちづくりに資する優先度の高い整備事業のうち、関係機関との協議の整った事業から整備に着手し、一定の効果が評価されている。また、事業効果を高める目的で、地域再生マネージャーと連携し、天龍峡の活性化を目指した地域主体による誘客事業やイベント、おもてなしや研修事業、観光のまちづくりに向けた住民参加型のワークショップを並行して実施し、ソフト面からの取り組みも推進してきている。
課題 ■引き続き、地域経済自立度を高めるため、観光入込客数・滞在時間を増加させていくことが望まれている。 ■天龍峡の中心である名勝天龍峡の適切な保存管理の他、公開活用に資する、滞留させる施設、広域的に回遊を促す環境整備など新たな魅力づくりの創出、街なみ環境整備等に着手していく必要がある。 ■整備が進みつつある遊歩道として利活用も可能な三遠南信自動車道天龍峡大橋(仮称)をはじめ、三遠南信自動車道の全線開通やリニア中央新幹線(東京～名古屋間)開通による来訪を見通し、名勝天龍峡にふさわしい景観、安全・快適なまちづくりを一層進める必要がある。
将来ビジョン(中長期) ■「天龍峡再生プログラム」、「名勝天龍峡保存管理計画」、「名勝天龍峡整備計画」に示された理念である「天龍峡百年再生」(本計画目標)が目指す天龍峡の姿の実現。 ■国が平成27年度供用開始を目標とする三遠南信自動車道天龍峡大橋(仮称)への歩廊添架や、天龍峡インター周辺の休息施設など、新たな魅力を活用した天龍峡の活性化。 ■将来、三遠南信自動車道全線開通、リニア中央新幹線(東京～名古屋間)開通によって、都市部との距離が短縮され身近な観光地に位置付く天龍峡が活性化していくことで、南信州地域全体へ広がる観光に結びつくとともに、地域経済活性化への波及。

目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値		
				基準年度	目標年度		
観光入込客数	人/年	1年間に天龍峡を訪れた観光客の人数	天龍峡再生を目指す地域活性化の度合いを捉える数値	217,400 人	H24	350,300 人 H27	
案内人利用件数	件/年	1年間に天龍峡で案内人を利用した件数	地域資源や人とのふれ合い・交流の度合いを捉える数値	189 件	H24	250 件 H27	
歩行者数	人/8h	基準日における舩射橋(歩道橋)歩行者数	地域資源や人とのふれ合い・交流の度合いを捉える数値	1,020 人	H25	1,350 人 H28	
交通量	台/12h	基準日における天龍峡再生道路通過車両台数	安全快適なまちの度合いを捉える数値	1,959 台	H25	2,590 台 H28	
滞在時間	分	天龍峡を訪れた観光客の平均滞在時間	安全快適なまち、癒し(居心地)の度合いを捉える数値	95 分	H25	120 分 H28	

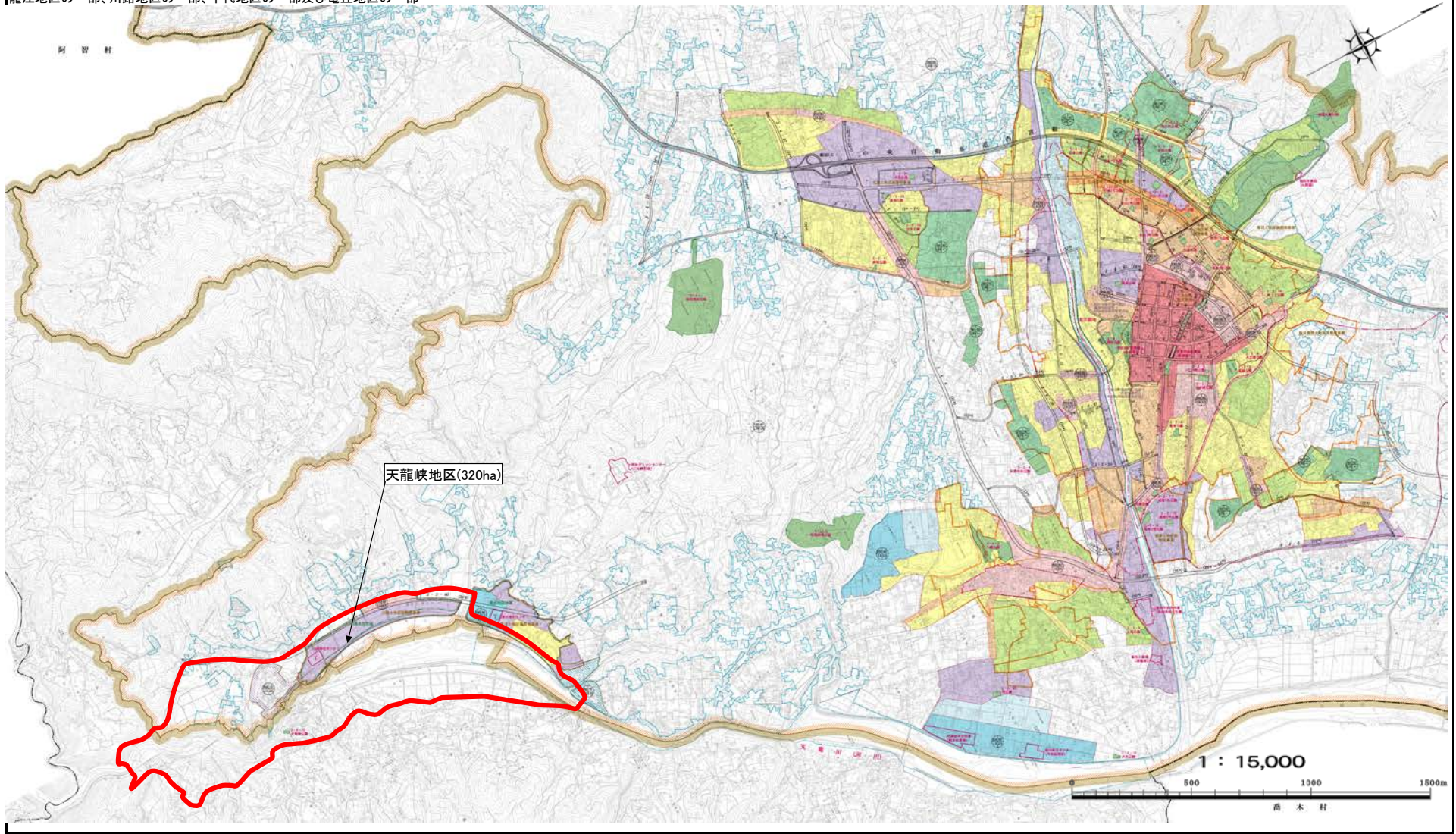
都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針 小目標① 住む人も訪れる人も、ゆったりと自然や歴史に触れ、人と人との交流を楽しみ、身も心も癒される天龍峡づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ■天龍峡の魅力に触れる、親しめる場の整備 ■広域の天龍峡の自然をゆっくり楽しめる場の整備 ■人と人との交流、ゆったり癒される場づくり 	<p>【基幹事業】</p> <p>地域生活基盤施設事業：天龍峡北緑地、姑射橋広場、太田下広場 高質空間形成施設事業：市道龍江207号線</p> <p>【提案事業】</p> <p>地域創造支援事業：ウォーキングコース整備、景観保全対策 事業活用調査：事業効果分析 まちづくり活動推進事業：天龍峡まちづくり支援事業</p>
<p>整備方針 小目標② 名勝地にふさわしい景観と、安全快適な天龍峡づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ■名勝天龍峡の風致景観に調和し落ち着いた空間づくり ■多様な来訪者、多様な目的を持つ来訪者が安心・快適に楽しめる場づくり 	<p>【基幹事業】</p> <p>道路事業：市道川路44号線、市道龍江207号線 公園事業：天龍峡児童遊園 地域生活基盤施設事業：姑射橋広場、情報案内看板 高質空間形成施設事業：市道龍江207号線 街なみ環境整備事業</p> <p>【提案事業】</p> <p>地域創造支援事業：観光施設安全点検、景観保全対策 事業活用調査：事業効果分析 まちづくり活動推進事業：天龍峡まちづくり支援事業</p>
<p>その他</p>	

都市再生整備計画の区域

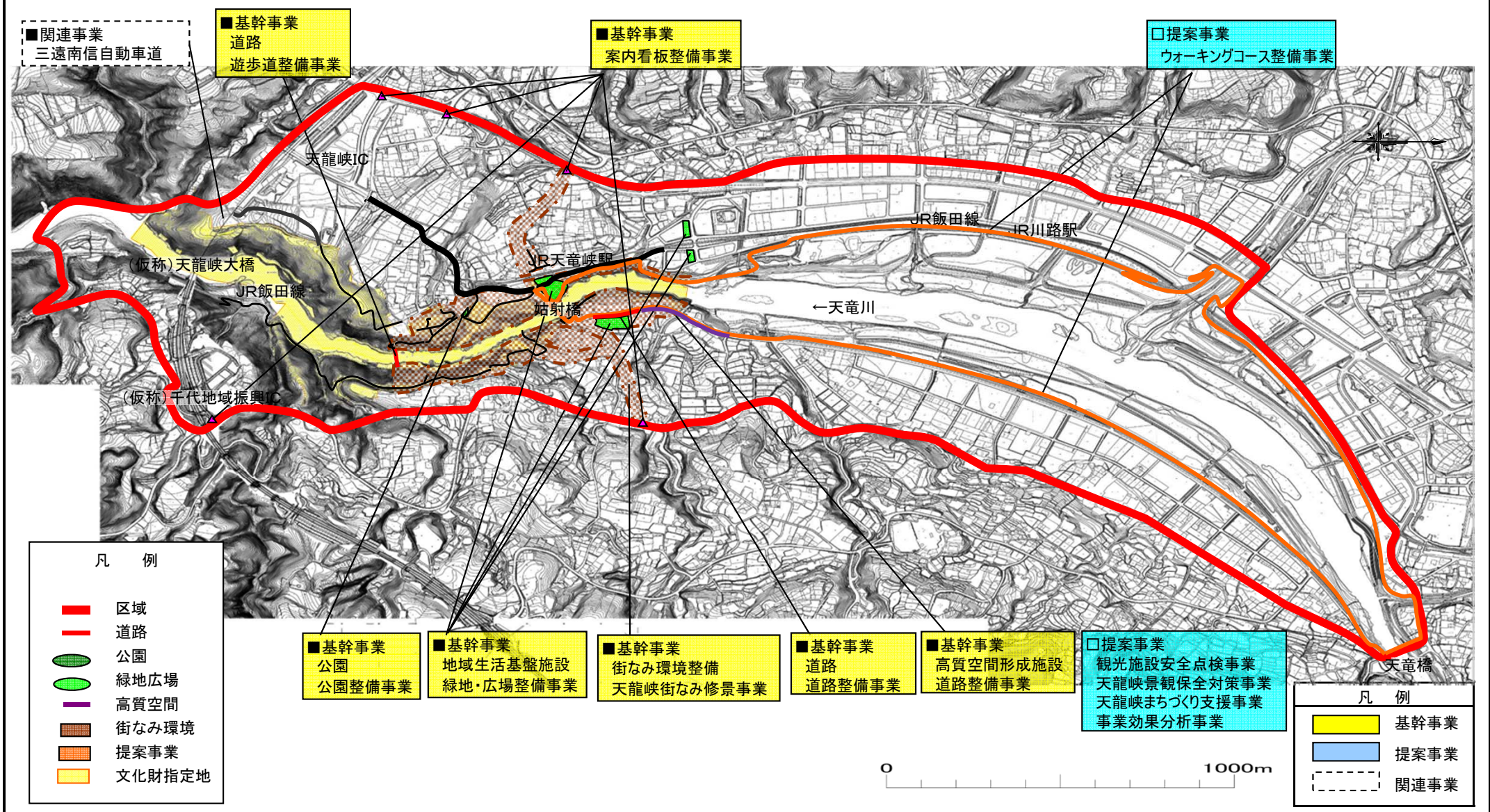
天龍峡地区(長野県飯田市)	面積	320 ha	区域	龍江地区の一部及び川路地区の一部、千代地区の一部、竜丘地区の一部
---------------	----	--------	----	----------------------------------

龍江地区の一部、川路地区の一部、千代地区の一部及び竜丘地区の一部



天龍峡地区(長野県飯田市) 整備方針概要図

目標	住む人も訪れる人も、ゆったりと自然や歴史に触れ、人と人との交流を楽しみ、身も心も癒されるまちづくり	代表的な指標	天龍峡の観光客数 (人/年)	217,400 (H24年)	→	350,300 (H27年)
			天龍峡の歩行者数 (人/8h)	1,020 (H25年度)	→	1,350 (H28年度)
			観光客の平均滞在時間 (分)	95 (H25年度)	→	120 (H28年度)



■ 関連事業
三遠南信自動車道

■ 基幹事業
道路
遊歩道整備事業

■ 基幹事業
案内看板整備事業

□ 提案事業
ウォーキングコース整備事業

- 凡 例
- 区域
 - 道路
 - 公園
 - 緑地広場
 - 高質空間
 - 街なみ環境
 - 提案事業
 - 文化財指定地

■ 基幹事業
公園
公園整備事業

■ 基幹事業
地域生活基盤施設
緑地・広場整備事業

■ 基幹事業
街なみ環境整備
天龍峡街なみ修景事業

■ 基幹事業
道路
道路整備事業

■ 基幹事業
高質空間形成施設
道路整備事業

□ 提案事業
観光施設安全点検事業
天龍峡景観保全対策事業
天龍峡まちづくり支援事業
事業効果分析事業

- 凡 例
- 基幹事業
 - 提案事業
 - - - 関連事業

0 1000m

社会資本整備総合交付金チェックシート

(都市再生整備計画事業等タイプ)

計画の名称:天龍峡地区都市再生整備計画 事業主体名:飯田市

チェック欄

I. 目標の妥当性	
①都市再生基本方針との適合等	
1)まちづくりの目標が都市再生基本方針と適合している。	○
2)上位計画等と整合性が確保されている。	○
②地域の課題への対応	
1)地域の課題を踏まえてまちづくりの目標が設定されている。	○
2)まちづくりの必要性という観点から地区の位置づけが高い	○
II. 計画の効果・効率性	
③目標と事業内容の整合性等	
1)目標と指標・数値目標の整合性が確保されている。	○
2)指標・数値目標と事業内容の整合性が確保されている。	○
3)目標及び事業内容と計画区域との整合性が確保されている。	○
4)指標・数値目標が市民にとって分かりやすいものとなっている。	○
5)地域資源の活用はハードとソフトの連携等を図る計画である。	○
④事業の効果	
1)十分な事業効果が確認されている。	○
2)事業連携等による相乗効果・波及効果が得られるものとなっている。	○
III. 計画の実現可能性	
⑤地元の熱意	
1)まちづくりに向けた機運がある。	○
2)住民・民間事業者等と協力して計画を策定している。	○
3)継続的なまちづくりの展開が見込まれる。	○
⑥円滑な事業執行の環境	
1)計画の具体性など、事業の熟度が高い。	○
2)交付期間中の計画管理(モニタリング)を実施する予定である。	○
3)計画について住民等との間で合意が形成されている。	○